

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれ力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくのだ

U-net通信

2016年7月
Vol.90

発行:NPO法人 地球環境共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 <http://www.unet.or.jp> 編集人:大山正治/発行人:比嘉照夫

農業・環境改善・環境教育で成果を上げる新潟県村上地域

～ 社会福祉法人製造のEMボカシを農業・家庭菜園・花壇に全面活用 ～

取材/大山

村上市は新潟県北部に位置し山形県と接する日本海に面した風光明媚な瀬波温泉等観光地もあり、城下町の趣が多く残り文化的にも恵まれた地域である。また三面川の鮭、高級伝統工芸品である堆朱でも有名だが、なんといっても米をはじめとする農産物が美味しいのが自慢である。

約30年前、比嘉照夫理事長が村上市出身で法務・文部大臣等を歴任した故稲葉修衆議院議員との米の自由化論議のことである。稲葉氏は自由化には反対だが今後自由化に対抗するには安心安全で高品質の米づくりが必要で、これにはEM自然農法を絶対に拡げるべきとの強い意見が、村上地域でのEM普及のきっかけとなった。今では、稲作や野菜作り、家庭菜園、旅館・公衆トイレ清掃、河川浄化等の環境改善、環境教育にもなる学校プール清掃などEM活用は多岐に渡っている。こうした村上地域の現状を新潟県世話人の加藤治郎氏の案内でご紹介する。



▲EMでヘドロが無くなり悪臭も消えた三面川河口付近の船溜まり



◀村上市立山辺里小学校プールを清掃する5・6年生と齋藤隆校長(黒の体操着)



◀EM自然農法で大好評の「コシヒカリ」を作り続ける信田久二郎氏

完全無農薬で15年以上稲作を継続

信田久二郎氏

除草剤を使わない稲作は雑草対策で皆さん苦勞しているようだ。6月初旬に見た信田久二郎氏の田んぼは55アールの広さで有機JAS認定圃場だが、田んぼに手を入れて驚いたのはトロトロ層が10cmもあった。この層は生育にも良いのだが、雑草が生えないのだそうだ。コナギなど雑草の種は3cm以下に沈んでしまうと生えないのだと言う。このトロトロ層が厚く出来上がるまでには年月とEMボカシや活性液の投入が不可欠。収穫後、代掻き前、田植え前後、育苗中にも絶えずEMを活用していると言う。信田氏のEM自然農法による「こしひかり」は直接消費者に販売していて、一般慣行栽培米の2倍の価格でも安心安全しかも高品質で美味しいので、喜んで買ってくれるとのこと。

学校プール清掃や三面川の河川浄化にもEMが活躍

三面川も村上市及び周辺の都市化等環境の悪化から汚染され、鮭の遡上も減少してきた。そこで、村上市と市民グループなどが河川浄化等環境改善

に取り組み始めたのだが、その役割の一端を担ったのが村上EM研究協議会やNPOいわふね地域エコセンター(加藤治郎理事長)だ。加藤理事長はじめ会員の皆さんが村上市の全小中学校にEMでのプール清掃を普及させた。6月上旬に山辺里小学校のプール清掃を見物させてもらったが、EMが投入されていたので、アオコが付着しないから清掃が楽なばかりか、プール排水溝近くにヤゴやオタマジャクシもいて生態系の豊かさが確認でき、児童にとって環境学習にもなっていることが解ると思われる。EMで浄化されたプール排水や会員等有志が流すEM活性液が清水川・大龍寺川など街中の川を伝い三面川へ流れてヘドロが減り悪臭も無くなるなどの成果が表れている。

また、三面川河口付近にある船溜まりには、鮭を獲る漁船やレジャーボートが係留されている。現在は透明度もあり臭いも無いが、これにもEM活性液が役立っている。週に400ℓを15年近く投入している。この船溜まりは、投入前には10年に1回の割合で浚渫が行われていて1億3千万円もかかっていたそうだから、EM活性液投入の費用対効果は驚くばかり。

(次ページに続く)

EMでピカピカに

瀬波温泉市営駐車場公衆トイレ

公衆トイレの清潔度が観光地を左右すると言う人も多い。客は美味しい料理、素晴らしい景色などと並ぶくらい風呂やトイレの清潔さ・心地よさを重視している。これ同様に観光地の公衆トイレにも気が行くようだ。他がいくら好印象でも、入った公衆トイレが汚いと全体のイメージを損なうのだ。



▲瀬波温泉の市営公衆トイレをEMで清掃する伊井誠子さん(右)と加藤治郎氏。バックは加藤氏が経営する「地酒の店たむら」

瀬波温泉の市営駐車場にある公衆トイレの清掃は瀬波温泉区が市から委託を受け、NPOいわふね地域エコセンターが担当している。NPO会員の伊井誠子さんを中心に近くの松澤由美さんも手伝い、EM活性液やEM石鹸などを使いいつもピカピカに保たれ、



▲瀬波温泉で好評な軽食喫茶[TOTO]の松澤智和氏(左)と加藤治郎氏

観光客や近隣住民に喜ばれている。また、この近くで軽食喫茶「TOTO」を営む松澤智和氏は洗い物や床などにEM活性液を使っていて、化学洗剤と違って肌が荒れず安心して、汚れも落ちやすく付きづらいつと。

プロも顔負けの野菜作り 各地でEM活用の家庭菜園

EMボカシと活性液を使用した家庭菜園は村上市の各所に広がっている。家族の為・遠くに住む子供・孫の為・近隣の人の為等色々な理由があるが、基本は安心安全で美味しい野菜を求めてのことだ。

街中の自宅裏庭で家庭菜園を営む宝田奈都さんは、保存がきき手間のかからないジャガイモ、玉ネギ、ニンニクを栽培している。今年90歳になる宝田氏は、歩きも速く元気で頭脳明晰、これもEMのおかげと言う。

平成6年からEM栽培を続け地域リーダーの一人、前田タケさんは東京に住む息子と娘さんに自作の野菜を送るのが楽しみで、特にお孫さんがおばあちゃんの作ったトマトが大好きだと言う。

3人で180坪の畑を借りて、井戸まで掘って菜園を続けている小島信子さんは自分が栽培した野菜の種も使っている。旬を過ぎたイチゴを頂いたが、東京の千疋屋や高野フルーツに出しても負けないくらいの美味しさであった。

佐藤チカ子さんは自宅庭の一角を利用した家庭



▲佐藤チカ子さんの玉ネギ

菜園では収穫時期を迎えた玉ネギが人目を引いた。密植され、ところ狭しと立派に育っていたのだ。くず苗を密植しただけだそうだが、EMボカシと活性液を使用しているだけだと言う。



▲宝田奈都さん



▲前田タケさん



▲小島信子さん

EMクリーニングは大好評で環境に優しい

クリーニングわら竹

村上市で一番大きいクリーニング会社の「クリーニングわら竹」では、クリーニング工程のすすぎの段階でEM活性液を使用している。消臭・着心地・保湿・肌荒れ防止に効果があり、お客様から大好評。社長の渡辺明氏はEMのメリットについて、①抗酸化効果により洗浄力が強い ②ドライ溶剤がいつまでも汚れず透明度が保たれる ③アトピーなどアレルギーの人には肌荒れ防止になる ④繊維を蘇らせる効果があり長持ちするばかりか風合いも良くなる ⑤体臭、タバコ臭、ペット臭を消す効果があるなど。そして何よりは環境に優しいこと。クリーニングにはたくさんの水を使用するのでEMが混じった排水が浄化源となり川・海に流れて周辺地域の環境改善に繋がることだろう。



▲EMを活用する「クリーニングわら竹」の工場をバックに渡辺明社長(左)と加藤治郎氏

高品質なEMぼかし作り

社会福祉法人「青空会」すずかけ

村上市郊外に設置されている就労継続支援B型事業所である「すずかけ」は障がい者自立支援法に基づき運営される施設。NPOいわふね地域エコセンターが必要とされるEMボカシを全量生産している。このボカシで村上市の農業・家庭菜園・花壇の需要をほぼ満たしている。村上市役所玄関前を彩る花壇の土壌にも鋤きこまれ、来訪者の笑顔を誘っている。

当施設は、EM活性液と農業廃棄物であるもみ殻や糠を活用したEMボカシ作りで、環境に優しい循環型社会への貢献活動の継続を目指している。



▲村上市で使用される大半のEMボカシを作る「すずかけ」の方々

『善循環の輪 EM 山口の集い』を県内の活動の弾みに

取材／針生

EM 技術を普及するイベントとして全国各地で開催している「善循環の輪の集い」の山口での集いが 7 月 23 日、防府市で開催される。開催を前に、現地会員の皆さんの活動を紹介する。

山口県防府市は、山口県中南部の周防灘に面した人口 11 万 6 千の地方都市。市内には周防国府跡や国分寺、毛利氏庭園があるほか、源平の乱で焼失した東大寺を復興した重源上人が、寺の再建のための木材を切り出した山口市徳地も近くの歴史あるまちである。新緑の 5 月、「善循環の集い」開催の中心となって活動している前県会議員の神田義満氏と山口県世話人の松田圓子さんに活動を伺った。

4 年目を迎えた学校プール清掃

EM 活性液を使っている防府市立松崎小学校を訪ねた。同校では 25 メートルプールに、シーズンが終わる秋と翌年 5 月中旬に EM を投入。4 年目の昨秋は 11 月に EM 活性液 150 リットルを投入した。今年もこの 6 月にプール清掃を予定しているが、プールの中は、透明な状態を保ち、水面がきらきら光っている。担当の先生は、「水を抜いただけで汚れが落ち、掃除・管理しやすく、衛生的にも掃除がやりやすい」と話す。簡単にブラシでこすり、水をホースで流すだけで汚れが落ちる EM によるプール清掃は、下水への排水もきれいで、同校ではよく理解していただいている。神田氏は市内の全小学校にこの取り組みが進むことを期待している。



▲開校 143 年となる松崎小学校

市街地で米作、EM による環境農業

稲作に EM を活用している水田が防府市内の国衛二丁目にある。山陽本線防府駅の東北に位置し、近くに周防国府跡もある市街化している地域。稲作をおこなっている国本宏治氏によれば、水田 2 反 2 畝。水当て時に



▲EM で米・野菜づくりに励む国本宏治氏(手前)

EM を投入することでアオミドロが湧かず、赤トンボのほか、塩辛トンボに麦わらトンボも見られるようになったとのこと。収穫した米は甘さが増し、酸化しにくいと話す。国本氏は自宅の庭でもジャガイモ、玉ねぎなど EM を使って野菜作りに励んでいる。

自然を生かし、後世に続く地域づくりに挑む

防府市の隣り、山口市徳地地区で長年、EM を使って環境浄化や花づくり、有機農業を実践している松田圓子さん宅では、本格的な農業の取り組みが進んでいる。昨年、ご長男の臣太郎氏が長年勤めた警察を退官し、農業従事者として新たにスタートした。この春まで半年かけて自宅裏山の竹林を切り拓き、畑地として整備されたのだ。臣太郎氏はこれまで 400 種を超えるハーブを手掛けられたハーブの専門家。新たに整備した畑地には堆肥が入れられており、落ち着いたところでこれから 100 種類のハーブを植えるという。「徳地町は山野草の宝庫。あるものを活用して、人が来ていいなと思ってもらえる地にしたい」と意気込みを語る。自生のフキやヨモギ、カモミールなどのハーブづくりに勤しむ松田圓子さん。臣太郎氏の傍らで温かな眼差しで微笑まれる姿が印象的であった。



▲松田臣太郎氏(左)松田圓子さん(中)神田義満氏(右)



▲竹藪を切り拓いてつくられた畑地。花とハーブの郷を目指す

善循環の輪 EM 山口の集い in 防府

日時：7 月 23 日(土) 12:00～17:30

会場：アパホテル<山口防府>

山口県防府市八王子 1-29-20

人・自然環境を活かす宮崎県日向地域の EM 活動

～ 綾町では EM を活用した有機農業を推進 ～

取材／大山

宮崎県は気候が温暖で、日照時間の長さは全国でトップクラス。巨人等プロ野球球団の春のキャンプ地としても知られているように、2月～3月のキャンプシーズンは、雨があまり降らないのだ。

50年前頃は日南海岸や青島などの観光地は新婚旅行で一番人気があった。風景・食事・温泉が良いからだ。この地に続く日向市及び周辺地域は「ひむか」と昔から称される地域だ。「日に向かう」の意味で歴史的に重要な地域、「高千穂」や「西都原古墳群」等古代史の舞台であった。

また、高級農産物の一つとして名を馳せる「宮崎のマンゴー」、「完熟きんかん」等かんきつ類の産地で、有機農業を積極的に取り入れている地域でもある。

そこで、EMを使った有機農業、環境改善、健康増進等の現状を宮崎県世話人・黒木金三氏の案内でご紹介する。

98歳バリバリの現役が指導

EMひむかの里

日向市を中心に高千穂、延岡、宮崎の方々など約80名で活動する「EMひむかの里」はEM歴25年の黒木久善氏が



▲黒木久善氏のお店をバックに黒木久善氏(右)と黒木金三氏

会長を務め宮崎県を代表するEM活動団体だ。EMでの体験発表など勉強会が主体だが、会員や周囲の人たちはリーダー黒木会長の98歳とは思えない健康・心身の牙えにも関心が強い。自ら畑で作ったEM有機農産物

や知人の野菜や花を中心にEM商品も販売するお店を娘さんと共に経営している。店の場所は地理的に恵まれてはいないが、黒木会長の美味しく安心安全な品物を求める県内各地からのリピーターが多い。会長自身で今でも自動車を運転して商品を届けたりもしている。また、現在でも新たなものなどを覚える記憶力が抜群なのには驚きである。年配になると、昔のことは覚えているが、現在のことや新たな人の名前など覚えるのが難しいのが一般的だ。それに非常に穏やかであう人会う人が、また会いたいと思えるものを持っている。こうした黒木会長の飛び抜けた健康の秘訣を聞いたら、EMで野菜を作ったり飲んだりしてるから、と。



▲黒木久善氏がEMで栽培するジャガイモ

行政との連携を推進する

びゅあらいふ綾 綾町

綾町は有機農業と花のまちづくりで全国的に有名だ。ツバキなど照葉樹林が原始の姿で残る自然生態系を活かすために、有機農業推進の条例を全国に先駆けて作るなど先進的な政策を展開している。自然と共生したまちづくりが評価され、日本では5か所しかない「ユネスコエコパーク」にも選ばれた。花のまちづくりでも全国花のまち



▲綾町が無償貸与するびゅあらいふ綾の作業場所

づくりコンクール大賞・農林水産大臣賞をはじめ数多く受賞している。

生態系を活かす循環型社会に不可欠なEMでの生ゴミ堆肥化や河川・湖沼の浄

化など環境改善活動を綾町で担うのが「びゅあらいふ綾(谷口みゆき代表)」だ。毎週月曜日の午後が定例の活動日

で ①EM活性液・石鹼・ボカシの製造販売 ②町役場の池・プール・町内河川へのEM活性液やダングの投入 ③綾小学校での環境学習支援 ④生ごみ堆肥を使った家庭菜園や花づくりの指導が主な活動だ。一般の人用には、EM活性液・ボカシ・石鹼をク



▲綾小学校でのEMを使った環境学習

リーニング屋さんなど市内5店で売ってもらっている。また、活性液・ボカシ・生ゴミ堆肥は農家に有機資材として大量に売られている。まさに町が勤める有機農業のサポート役を見事に果たしている。



▲綾町役場の池にEM活性液を投入する綾小学校児童



information

事務局だより

【訂正】

本紙88号(2016年1月)でご案内の今年度年間行事計画で善循環の輪の集い(新潟)の開催日が変更になりました。

正しくは、下記のとおり開催します。

行事名	開催日
善循環の輪の集い(新潟)	8月27日(土)